

(APS2023 カリキュラム用)

2027 年度春 semester 学部演習科目募集要項

1. 学部演習科目（ゼミ）とは

(1) ゼミとは、専門的知識の習得と卒業成果物の作成を目的に、5 セメスターと 6 セメスターの専門演習、7 セメスターの卒業研究Ⅰ、8 セメスターの卒業研究Ⅱ 及び卒業論文の一連の科目のことを指します。2 年間にわたり同じ指導教員の下で実施される少人数制の演習科目です。詳細については、以下の情報を確認してください。

- ・ 科目一覧（単位数、学修分野、受講登録上の注意事項など）
- ・ シラバス（到達目標や授業方法、成績評価方法など）※シラバスの内容は全ゼミで共通
- ・ 開講ゼミ一覧（申請可能な指導教員、開講言語など）
- ・ ゼミ要覧（個々のゼミの詳細）

(2) APS2023 カリキュラム学生は、3・4 回生の演習科目を必ず受講しなければなりません。

(3) 学生からの申請と教員による選考に基づいて基本的に大学が受講登録を行います。

2. 科目情報

(1) 基本的な考え方

2023 カリキュラムでは APS 所属学生 **全員** が必ずいずれかの APS 教員のゼミに所属します。図の通り、4 セメスター次に受講申請を行い、選考を経て所属ゼミが決まります。5 セメスター以降に 2 年間に渡り同じ指導教員の下で学修します。なお、受講登録は抽選登録期間の前に大学にて実施します。

4 セメスター次	5 セメスター次	6 セメスター次	7 セメスター次	8 セメスター次
受講申請	専門演習 【履修指定科目※】	専門演習 【履修指定科目※】	卒業研究Ⅰ 【履修指定科目※】	卒業研究Ⅱ 【必修科目】
受講取消不可				卒業論文 【選択科目】 受講取消可

※履修指定科目：全学生が受講するよう学部則にて定められている科目です。必ず受講する必要がありますが、有効評価（C 以上）を取得することは卒業要件ではありません。なお、「専門演習」は 5 セメスター次と 6 セメスター次の計 2 回受講します。

(2) 時間割

ゼミは基本的に semester 開講科目です。教員によりゼミの時間割は異なるため、ゼミの曜日時限は時間割表にて確認してください。なお、原則的に 3 回生ゼミ「専門演習」では 5 セメスターの学生と 6 セメスターの学生が合同で、4 回生ゼミでは「卒業研究Ⅰ」と「卒業研究Ⅱ」の両受講生が合同で授業を受講します。

(3) 「卒業論文」の受講登録

「卒業論文」は卒業予定のセメスターに「卒業研究Ⅱ」とともに抽選登録期間前に大学が受講登録を行います。「卒業論文」を受講登録しない（卒業論文を提出しない）学生は、抽選登録期間、先着登録 A 期間、先着登録 B 期間、受講辞退期間 1 の間に「卒業論文」を自ら Campusweb 上で受講取消してください。卒業成果物についての詳細は 4 項を確認して下さい。なお、「卒業論文」は曜日時限を設定しない科目としてシステム上に表示されます。

(4) ゼミの変更及び受講取消

所属ゼミの変更や受講取消することは出来ません。但し、「卒業論文」については抽選登録期間、先着登録 A 期間、先着登録 B 期間、受講辞退期間 1 において受講を取り消すことが可能です。なお、抽選登録期間、先着登録 A 期間又は先着登録 B 期間に受講を取り消した場合は、先着登録 A 期間又は先着登録 B 期間中に学生自身で再度の受講登録を行うことができます。一方、受講辞退期間 1 に受講を取り消した場合は、学生自身で再度受講登録を行うことができません。操作方法の誤り等により受講を取り消した場合でも救済措置は設けられていませんので、操作の際は十分注意してください。

(5) 定員

ゼミは出来る限り少人数の編成にするため、各ゼミの受講者数を平準化するために定員を設けています。各ゼミの定員はおおよそ 20 名弱になる見込みですが、正確な定員は申請及び選考の過程で決まります。また、春セメスターと秋セメスターそれぞれの申請者見込数に応じて、春と秋それぞれに定員を設定します。

3. 申請について

(1) 申請要件

日本語基準学生が英語開講のゼミに申請する場合は、申請時に英語中級 A・B 両方の単位修得をしていることが必要です。なお、英語中級 A 及び B を未修得の日本語基準学生が英語開講ゼミに申請した場合については、審査結果に関わらず、学部執行部の判断により所属ゼミを決定します。

(2) 申請方法

以下について留意のうえ、後述する申請期間内にオンライン申請フォームより申請してください。

- ・必ず事前に本募集要項、ゼミ要覧等を精読してください。
- ・期限後の申請は理由の如何を問わず受け付けません。
- ・ゼミの定員を超過した場合は教員による書類選考が実施されるため、必ずしも希望するゼミに所属できるとは限りません。申請時には必ず第 5 希望まで記入してください。
- ・志望理由書は全希望ゼミ分を作成し、提出してください。

(3) 選考

申請者数が定員を超過した場合には、指導教員による選考が実施されます。選考では志望理由書や GPA を含め総合的な観点から実施されます。選考結果に関するご質問にはお答えできませんので予めご了承ください。なお、選考に当たっては希望順位の高い学生を優先的に受講者として配置します。

<選考に不合格となった場合及び申請が行われなかった場合の取り扱い>

第 5 希望までのいずれのゼミにも所属できなかった場合は、申請期間（2 巡目）にて再度申請してください。該当者には申請期間（2 巡目）の前に Student Portal を通して通知します。なお、選考状況によっては 2 巡目を不開催とする可能性もあります。申請期間においていずれのゼミにも所属できなかった場合は、大学が所属ゼミを決めます。学生による申請が行われなかった場合も同様に大学が所属ゼミを決めます。

<選考中または選考後に志望していたゼミが閉講となった場合の取り扱い>

選考中または選考後に志望していたゼミが閉講となる場合は、大学が定める方法により対応します。

(4) スケジュール

内容	日程
① 募集情報（要項、ゼミ要覧等）の掲載	2026 年 9 月下旬
② 申請期間 ※全員	2026 年 10 月 22 日(木)～11 月 4 日(水) 16:30
③ いずれのクラスにも配置できなかった学生へ 2 巡目の申請について案内 ※選考状況により不開催の場合あり	2026 年 11 月下旬～12 月上旬
④ 申請期間（2 巡目） ※該当者のみ、選考状況により不開催の場合あり	2026 年 12 月 4 日(金)～12 月 14 日(月) 16:30
⑤ 所属ゼミ発表	2027 年 1 月下旬

※上記スケジュールは変更となる可能性があります。

(5) その他の申請に関する留意事項

1) 交換留学（APU→協定大学）への参加学生

留学中であるかどうかに関わらず、受講申請は 4 セメスター次に必ず実施してください。5 セメスターまたは/および 6 セメスター次に交換留学に参加中の学生は、3 回生ゼミ「専門演習」の受講が免除となります。交換留学から復帰するセメスターには、留学前/留学中の申請・選考により決まった所属ゼミへ大学が受講登録を行います。なお、7 セメスター時に交換留学に参加中の学生は 4 回生ゼミ「卒業研究Ⅰ」を遠隔指導にて受講します。また、留学から復学した後、指導教員が学外研究等のためゼミを開講しない場合は、その期間に限り一時的に別のゼミに所属することとなります。詳細は復学前のセメスターに学部演習担当から連絡をします。なお、回遊プログラム等でセメスターの一部の期間中のみ留学等に参加する場合や、日本語パートナーズ参加学生も、上記に準じた対応とします。

2) 休学予定の学生

受講申請は 4 セメスター次の申請期間に必ず実施してください。4 セメスター終了直後に休学を予定している学生も 4 セメスター次（休学前）に必ずゼミの受講申請を実施してください。休学中、あるいは休学後のゼミの受講申請は認められません。なお、ゼミ受講申請後に病気等により 4 セメスターの途中で休学した場合については、当該申請を無効となります。休学から復学した 4 セメスター時に改めてゼミの新規申請を行ってください。

3) 3 回生編入学・転入学の学生、5 セメスター次に APS へ転籍する学生、3 回生以上で再入学する学生、交換留学生（協定大学→APU）

通常とは異なる時期に申請期間を設けます。具体的な申請期間は Academic Information Web サイトに掲載します。

4. 卒業成果物

卒業成果物に関する説明を参考として記載しますが、実際に作成する際には指導教員の指示に従って作成、提出するようにしてください。なお、卒業成果物はゼミの開講言語にて作成する必要があります。ゼミの開講言語は開講ゼミ一覧を確認してください。

(1) 卒業成果物の種類

「卒業研究Ⅱ」「卒業論文」は、以下の最終成果物を提出してください。なお、「卒業研究Ⅱ」のみを受講する場合(単独受講)と、「卒業研究Ⅱ」と「卒業論文」の両方を受講する場合で、提出する成果物が異なりますので注意してください。

受講パターン	受講科目	卒業成果物	単位数
(1)	卒業研究Ⅱ (単独受講)	卒業レポート	2
(2)	卒業研究Ⅱ	卒業論文アブストラクト等	2
	卒業論文	卒業論文	2

論文、レポートにはそれぞれ以下のように異なる文字数指定がありますが、文字数以上に内容や構成も異なります。
[「APU ライティング・マニュアル」](#)を参考にすると同時に、教員の指導内容をよく理解して執筆に臨んでください。

(論文) 日本語：15,000 字 / 英語 6,500 words 以上

(レポート) 日本語 8,000 字 / 英語 3,500 words 以上

また、教員によっては論文・レポート以外の形式（映像等）での提出を認める場合があります。その場合は「卒業論文」は解説論文(日本語: 6,000 字 / 英語: 2,500 words 以上)、「卒業研究Ⅱ」はサマリー（日本語: 800 字 / 英語: 300 words 以上）を、成果物とともに提出することが求められます。

(2) 提出方法

卒業成果物は Moodle へのオンライン提出となります。提出期限は Academic Information Web サイトの「演習科目（ゼミ）」ページに掲載します。

5. その他留意事項

(1) 卒業要件において単位修得が定められている科目との時間割重複

APS2023 カリキュラムでは一部の共通教養科目の単位修得が卒業要件として定められています（例、「文化・社会学入門」「経済学入門」「国際関係論入門」など）。これらの科目とゼミの時間割が重複した場合であっても、大学による受講上の配慮はありません。これらの共通教養科目はできるだけ早期に単位を修得することを推奨します。

(2) 国際関係オナーズ・プログラム（IR オナーズ・プログラム）へ登録予定の学生へ

[IR オナーズ・プログラム](#)には認定条件の 1 つに「2.国際関係学修分野に所属する教員の指導の下、卒業論文（卒業レポートではない）を執筆し、審査に合格し、A あるいは A+の成績を得ていること。（『卒業論文』の単位を A 或いは A+の成績で取得していること）」が定められています。本プログラムに登録予定の学生は、第 1 希望から第 5 希望まで全て IR 分野に所属する教員のゼミへ申請することを推奨します。

(3) 指導教員が学外研究制度（ADL）等に参加する場合

APU には学外研究制度（ADL）等、教員が一定期間（1 セメスターあるいはそれ以上の期間）学外での研究活動に専念する制度があります。本制度が適用される教員は、該当する期間は原則として授業を担当しません。制度が適用される教員と適用時期については開講ゼミ一覧で確認してください。所属するゼミの指導教員に本制度が適用される場合、ゼミの取り扱いは以下の通りとなります。

・3 回生演習（専門演習）

ADL 等取得セメスターでは開講されず、開講されなかったクラスは同一年度内の ADL 直前もしくは直後のセメスターに専門演習が2コマ開講されます。なお、以下パターンに該当する学生については ADL 等の取得予定教員のゼミへの申請は出来ません。申請が発覚した場合については、審査結果に関わらず、指導教員が不在の間に限り、一時的に別のゼミに所属することとなります。

	26 秋	27 春	27 秋	申請可否
教員		ADL 等 (学内不在)	「専門演習」 2 コマ開講	
学生	4 セメスター 受講申請	5 セメスター 在学	6 セメスター 留学	申請不可 (専門演習が2コマ受講不可のため)
学生	4 セメスター 受講申請	5 セメスター 留学	6 セメスター 在学	申請可 (6 セメスターでは専門演習を2コマ受講ではなく、1コマのみ受講とする。)

	26 秋	27 春	27 秋	申請可否
教員		「専門演習」 2 コマ開講	ADL 等 (学内不在)	
学生	4 セメスター 受講申請	5 セメスター 留学	6 セメスター 在学	申請不可 (専門演習が2コマ受講不可のため)

・4 回生演習（卒業研究Ⅰ/卒業研究Ⅱ/卒業論文）

以下いずれかの方法でゼミが開講されます。どちらの方法になるかは指導教員と大学が協議して決めます。

- ① 指導教員が制度適用期間中でも遠隔（オンライン）でゼミを開講し、指導を行う。
- ② 指導教員の代わりに別の教員による指導を受ける。

6. 問い合わせ先

問い合わせの前には必ず本募集要項を精読してください。問い合わせは基本的にメールでのみ受け付けます。また、回答までに数日要する場合がありますので、予めご了承ください。

学部・研究科オフィス 学部演習担当

Email: seminar1@apu.ac.jp